

【メロディライティングの教科書】

～センスに頼らないメロ作りのテクニック17連発～(仮)

【目次】

(1) メロディって何のことか説明できますか？

そもそもメロディとは何なのかを知ることで、今後のメロディ作りに大切な知識の基礎を築くことができます。

1：メロディに必要な3つの要素

メロディ作りの基本になる以下の3つについて解説します。

- ・トナリティ
- ・レスト
- ・リゾリューション

2：歌メロディのチェックポイント

ボーカル曲のメロディを作るときに注意すべきこととして、リープ・ブレス・レンジ・スピードの4つについて見ていきます。

(2) メロディの基本的な動きを知る

音の基本的な動きを学ぶことで、スムーズで違和感のないメロディを作ることができるようになります。進みやすい音の組み合わせや安定的な音・不安定な音などが判断できるようになります。

3：トニゼイションを意識する

メロディ作りにおいて、リゾリューションを意識することの大切さについて説明します。

4：スムーズな動きを使う

どの音がどの音に移動するとスムーズな動きのメロディになるか、についてテンデンシートーンという考え方を中心に学びます。

5：安定な音・不安定な音を使い分ける

スケール音の中で安定的な音と不安定な音があることを説明します。また、印象的なメロディをつくるために必須のテクニック、テンションリゾルブについて解説します。

(3) メロディの種を育てる

メロディ作りの基本となるモチーフの考え方から、モチーフを発展させて様々なメロディを作り出すテクニックを学びます。

また、メロディのメリハリを作り出す3つのメロディの種類についてもご紹介します。

6：モチーフファーストで作る

1つのメロディアイデアから複数のメロディを作り出すためのテクニックとして、モチーフの概念を説明します。

7：モチーフを育てる

モチーフから複数のメロディを作り出すための展開のテクニックについてご紹介します。

8：3種類のメロディを使い分ける

メロディを作るの指針となる以下の3つのメロディの種類を学びます。3つを使い分けることによって、メリハリのあるメロディを作れるようになります。

- ・スケールワイズ
- ・リープ
- ・リズムマイズド

(4) メロディとリズム

メロディの印象に大きな影響を与えるリズムについて見ていきます。まず基本として、ストレスパターンというメロディ（さらには音楽全体）にとって非常に重要な考え方を説明します。またリズムを使ったテクニックの例として、スピードコントロールとポリリズムをご紹介します。

9：強いリズム・弱いリズム

音楽全体を通して現れる強いリズムと弱いリズムのパターン（ストレスパターン）について学びます。

また作曲の際に基本リズムを設定することで、メロディを作りやすくなることについても説明します。

10：スピード感をコントロールする

楽曲のテンポを変えずに、メロディのコントロールだけでスピード感を変えることができるテクニックをご紹介します。

11：ポリリズム的メロディ

リズムに関するテクニックの例として、ポリリズムの発想を用いたメロディ作りについて解説します。

(5) メロディを広げる

セクション（Aメロ・Bメロ・サビなど）単位でのメロディの考え方や使えるテクニックについてご紹介します。

モチーフから発展させたメロディを用いて、どのように組み合わせたり配置していけば良いのかなどについて学んでいきます。

12：ガイドトーンからの発想

セクション全体を整える際に役立つガイドトーンとコントゥアーの考え方について解説します。

13：バランス・アンバランスの使い分け

セクションの中で、何種類のメロディがどういう順番で出てくるかということを調整します。

メロディの種類と順番によって、バランス／アンバランスなメロディ、シンメトリー／アシンメトリーなメロディをコントロールします。

(6) メロディの始まりと終わり

メロディ作りのコツは、メロディの始まりと終わりをしっかり意図を持って作ることです。

フレーズの配置や反復、終止の表現について学んでいきます。

またメロディの終わり方を演出する音使いについても解説します。

14：フレーズの配置

セクション内のどの位置からのフレーズをはじめどの位置で終わるのか、によってメロディの印象が大きく変わることを見ていきます。また、メロディを反復する際に気をつけることなどを学びます。

15：区切りの表現

フレーズの区切りを適切に表現し、聴き手がフレーズをしっかり把握できるメロディを作るための4つのテクニックを学びます。

16：オープン&クローズ

フレーズの終わりの演出として使えるオープン/クローズの考え方を解説します。フレーズがしっかりと終わった感じを出すか・出さないかによってメロディの印象や次のセクションへの移行に大きな影響を与えます。

(7) インテグレーション

今まで学んだテクニックを使って、実際にメロディを作る過程をご紹介します。各テクニックを使う際の実例として参考にしてください。

17：メロディライティング実践

※上記の内容は、より役立つ講座にするため、アンケートの結果を元に変更する場合があります。